

令和2年度霞ヶ浦学講座第4講「霞ヶ浦を旅するー藤森弘庵『航湖紀勝』ー」実施報告

実施日時：令和2年8月2日（日）13:30ー15:00

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

講師：木塚久仁子氏（土浦市立博物館副館長） 参加者数：30名

講演タイトル「霞ヶ浦を旅するー藤森弘庵『航湖紀勝』ー」

概要

土浦市立博物館より木塚久仁子副館長をお招きし、江戸時代に書かれた霞ヶ浦を旅した際の紀行文「航湖紀勝」についてお話を伺いました。「航湖紀勝」は、土浦市立博物館に木活字版が所蔵されています。

木塚さんの流暢な語りを通して、受講生の皆様は、江戸時代末期の霞ヶ浦～銚子の旅を通して、当時の霞ヶ浦、利根川水系にふれることができました。

「航湖紀勝」は、江戸時代末期に土浦藩の儒学者藤森弘庵により記された紀行文になります。藤森弘庵は、その後、土浦藩の藩校「郁文館」の督学も務めています。

藤森弘庵は友人2名（1名は江戸からやってきた友人儒学者）とともに6泊7日の行程で土浦から銚子へと往復の旅に出ています。江戸時代は舟運が発達し、土浦と銚子、江戸は流通（船）を通じた経済的なつながりがありました。

一行は、帆船や徒歩で霞ヶ浦の右岸側を通り、馬渡、浮島（当時は文字通り島）、牛堀、潮来、鹿島神宮、松岸、犬吠埼まで行き、牛堀、土浦のルートで戻ってきています。当時霞ヶ浦に多かった「河岸」を経由したことがうかがえます。また、「鯨かと思ったら浮島であった」（意約）という記載も見られます。浮島を過ぎたあたりからは、筑波山だけでなく富士山も見ることができたようです。江戸時代は東国三社へのお参りが流行したこともあり、鹿島神宮にも立ち寄っています。

道中の宿、景勝、酒と食事、土産などについて格調高く書かれており、当時の霞ヶ浦流域、銚子の様子、自然の豊かさをうかがうことができます。

（文責 小川）

